

港区のごみ減量を進める 3.24ミーティング



3月24日(火)に、エコプラザで開催された3.24ミーティングには、町会や区内企業の他、児童館や高校、容器包装リサイクル協会から合計40名ほどが参加しました。

昨年10月から資源プラスチックの回収が始まり、前年度同月と比べて不燃ごみが80%減、可燃ごみが10%増となっています。さらなるごみ減量・資源化に向け、区民の皆様と情報の共有を行いました。

テーマ1【イベントごみの減らし方】

お祭りなど、区内で行われるイベントでのごみの減らし方について情報共有を行いました。

1. イベントごみに関するワークショップ

3つのグループに分かれ、現在行っているイベントではどこからどのようなごみが出ているか意見を出し合いました。

主催本部から出る弁当ガラ等のごみも、意外と多いことがわかりました。



2. 「すぐにでも減らせるイベントごみ」ガイド

講師：A SEED JAPAN 代表理事・羽仁カンタ氏

A SEED JAPANでは、イベント参加者一人一人の協力を引き出しながらごみの分別・削減を行っています。リユース食器は1997年から取り入れており、ごみや資源物を分別収集するエコステーションで、リユース食器の回収も行っています。

ごみの出ないイベントを成功させる秘訣

イベント主催者とのパートナーシップの構築
協力してくれるボランティアのやる気を大切にす
来場者の自発性を引き出す

3. 芝浦運河まつりのリユース食器実践例

報告者：芝浦運河まつりリユース食器部会・中山氏

芝浦運河まつりでは、区が貸し出しているリユース食器を導入しています。昨年の運河まつりでは、ごみ回収ステーションを1箇所にして分別指導を行いました。その結果、まつりで出たごみの重さを把握することができたので、今後のごみ削減の具体案を立てることができました。



区で貸出しているリユース食器

4. 港区所有リユース食器のお知らせ・エコイベントマニュアル紹介

区では学校給食で使われなくなった食器をリユース食器としてイベントに貸し出しています。これまでに5団体、のべ1万枚を貸し出しました。(食器の貸出しは無料。運送の場合のみ実費負担。)

テーマ1のまとめ

イベントでのごみ減量は、参加者への呼びかけと、回収ステーションのわかりやすさが鍵となるようです。リユース食器利用イベントの企画から実施までの方法を説明した「エコイベントマニュアル」は、みんなと3Rのホームページからダウンロードすることができます。

テーマ2【港区の集団回収の現状と他の自治体の先進事例】

集団回収は、ごみの減量や資源化だけでなくコミュニティ再生のきっかけにもなると言われています。さらなる推進に向けて、情報共有を行いました。

1. 港区の集団回収の現状報告

報告者：港区清掃リサイクル課ごみ減量推進係係長・清水栄男

港区では、現在165団体が集団回収に登録し年間5千トン以上の古紙や飲料缶等を回収・リサイクルしています。この回収量は23区では14番目(1人当たり23.8kg)であり、まだまだ回収量を増やす余地があります。区では回収量に応じて報奨金や消耗品を支給しており、今後は年間1500トンの回収量増加を目指しています。

2. 廃油回収・リサイクルの話

講師：株式会社ユーズ代表取締役・染谷ゆみ氏

株式会社ユーズでは、1993年から廃食油を回収しVDF (Vegetable Diesel Fuel) にリサイクルし活用しています。2000年からは、墨田区内に回収ステーション(エコステーション)を設置し、同時に店舗等を拠点に墨田区内30か所で回収を行っています。また、油は元々入っていたボトルで回収する「墨田区モデル」で、「地産地消のエネルギー」「地域の潤滑油」とも言われています。

近年では「Tokyo油田2017」として、東京都内の天ぷら油を回収しVDF等に再資源化するプロジェクトも進めています。



上)左から、回収した油、処理中の油、副産物としてできるグリセリン、完成したVDF
左)参加者が持参してくれた使用済み天ぷら油

3. 故繊維の回収・リサイクルの話

講師：ナカノ株式会社代表取締役社長・中野聡恭氏

ナカノ株式会社は、古繊維を回収し古着・ウエス等へリサイクルしています。現在1日に約10トン回収し、用途や輸出国別に約130種類に選別します。主な輸出先は東南アジアで、年間約8万トンが輸出されます。

繊維リサイクルは歴史が古いのですが、近年では取扱う業者も減り集団回収されることも少なくなりました。まずは地域ごとの特徴に合せ、回収する仕組みを作ることから始める必要があるでしょう。



テーマ2のまとめ

現在集団回収を行っている165団体が回収品目を増やすことで、ごみ減量・資源化促進が広がります。使われなくなった衣類については、年間で人口×2~3kgほど回収できる可能性があります。

また、港区にある多数の大規模集合住宅が集団回収に取り組むことで、多くのごみの資源化が期待されます。今後の集団回収の可能性に期待が高まっています。

港区3R推進行動会議事務局

株式会社ダイナックス都市環境研究所内 (TEL 03-3580-8284)

港区産業・地域振興支援部清掃リサイクル課 (TEL 03-3450-8273)